

星空プロムナード 暦 惑星 秋の星座案内

作花一志（京都情報大学院大学）

1年で最も空が澄んだ頃になりました。秋から年末にかけての主な天象です。

月 日	現象	備考
9月29日	新月	
10月4日	初の人工衛星打ち上げ(1957)	スプートニック1号
10月15日	満月	
10月17日	すばる食	
10月29日	新月	
11月7日	立冬	太陽黄経 225
11月13日	満月	
11月17日	しし座流星群極大	
11月28日	新月	
12月1日	金星・木星の最接近	日没直後西南の空
12月6日	火星の合	太陽の背後
12月13日	満月	
12月21日	冬至	太陽黄経 270
12月27日	新月	

金星

宵の明星として日没後に見えています。しし座からおとめ座てんびん座へ移り太陽から離れて見やすくなってきます。10月末から来年にかけて-4等星で輝きます。

火星

10月初には日没直後に西の空に見えますが、太陽の背後に回って見えなくなります。

木星

天の川の東岸、南の低い空に輝き、ゆっくりといて座からやぎ座に向かっていきます。11月末～12月初には西の空で金星と並ぶのが鑑賞できます。

土星

しし座レグルスのそばで、明け方東天に見られます。

太陽

12月上旬に日の入りが最も早くなります。

しし座流星群

極大日に月齢14ですが、流星群の見える早朝3時ころには月は西に傾いています。

ペルセウスの冒険

秋の空には1等星がなくてさびしいですが、有名なギリシアの星物語を想い浮かべながら、ペルセウス座・アンドロメダ座・カシオペア座・ケフェウス座・ペガサス座・くじら座などをたどってみましょう。

昔、ギリシアのアルゴスという小さな国があり、アクリシオス王が治めていました。王にはダナエというひとり娘がいました。ある日「アクリシオスには息子は生まれず、孫によって殺されるだろう。」という恐るべき神託を受けました。恐れ驚いたアクリシオスはダナエに一切の男を近付けぬよう、青銅の塔に幽閉してしまいます。ところが好色の大神ゼウスは、なんと金色の雨粒となって窓から塔に忍び込み、ダナエはみごもりやがて男の子ペルセウスが生まれたのです。アクリシオスは嘆き怒り、娘孫とも箱に詰めて海へ捨ててしまいました。しかし運良くその箱はセリポス島に漂着し、親切な漁師ディクテウスに拾われ、ペルセウスはこの離れ小島でたくましく成長します。ところがディクテウスの兄でセリポス島の領主であるポリュデクテウスがダナエに横恋慕するようになり、邪魔になるペルセウスを遠ざけようと画策します。そして言葉巧みに、髪の毛が蛇でその顔を見たら石になってしまうという怪物メドウサの首と取ってくることをペルセウスに約束させてしまうのです。すなわち冒険の旅に出発という名の追放です。

それを見たゼウスは知恵の女神アテナと伝令の神ヘルメス(マーキュリ)に彼の援助を指示し、アテナは楯をヘルメスは翼のあるサンダルを贈りました。ペルセウスはメドウサの顔を見ないように、後ろ向きで接近し楯に映っているメドウサを狙って、首尾よく首を取ることに成功しました。このとき切り落とされたメドウサの首から生まれたのが翼を持ち天を駆けるペガサスです。

メドウサの首を袋に納め天馬ペガサスに乗って帰路エチオピアに立ち寄ったペルセウスは、美しい娘が海岸に鎖でつながれているのに出会いました。

た。わけをきくと、彼女は国王ケフェウスと王妃カシオペアの娘アンドロメダで、カシオペアが自分と娘の美しさは海の妖精にまさと自慢したため、ゼウスの弟である海的神ポセイドンの怒りを買って生贄にされたということです。ペルセウスはアンドロメダを襲ってきたくじらの化物ケイトスに全力を奮って挑戦し、ついにはメドウサの首を見せて石にしまい、アンドロメダを救出したのです。そして二人はめでたく結ばれました。実はアンドロメダにはピーネウスという婚約者がいたのですが、彼女はペルセウスを選んでしまったのです... まあ仕方ないですね。

新妻と一緒にセリポス島に戻って来たところ、母ダナエはポリュデクテースに捕らわれ明日にでも彼の寝所に連れて行かれそうなところでした。ペルセウスはポリュデクテースを攻めメドウサの首を見せて石に変えてしまい、母を救って義父ディクテウスを島の王位に就けます。

その後ペルセウスは生まれた国アルゴスに行ってみたくなくなってギリシアに渡り、円盤投げの競技に出場します。彼の投げた円盤は勢い余って観客席に飛び込み、ちょうどそこに居合わせた老人の頭に当たってしまいました。命を落したその老人こそ祖父王アクリシオスだったのです...。やはり神託通り、運命は変えられませんでした。

アルゴスはペロポネソス半島に、セリポス島はエーゲ海に今も実在します。今のエチオピアに海岸はありませんが、昔は紅海まで張り出していたのでしょうか？それともエチアピアとは地中海沿岸のどこか別の国だったのでしょうか？

アンドロメダ座には小望遠鏡観望にふさわしい大銀河 M31 (230 万光年) があります。W型のカシオペア座には淡い星雲がたくさんあり、過去 3 回も超新星爆発が記録されています。大四辺形をもつペガサス座の 51 番星は太陽以外で初めて「惑星」が発見された星です。また、ペルセウス座 β 星 (アルゴル)、ケフェウス座 δ 星、くじら座 α 星 (ミラ) は有名な変光星です。アルゴルはメドウサの首に位置する青い 2 等星で、2.12 等から 3.39 等まで正確に 2.86739 日周期で変光します。その原因について「アルゴルは連星でその軌道面がたまたま視線方向とほぼ重なっている (真横から見ている) ので、一方の星が他方の星を隠す食が起こるためだ。」というアイデアを出したのは約 200 年前イギリスのグッドリックという天文少年でした。彼は耳も口も不自由で 21 才の若さで病死してしまいましたが、視力と頭脳は抜群で綿密な観測の記録とすばらしいアイデアを残しています。現在ではこの 2 星からずっと離れたところに第 3 の星が発見され、アルゴルは 3 重連星であることがわかっています。なお、食によって変光する星は「食変光星」と言われ、非常にたくさん見つかっています。